

## モダン都市名古屋の公共建築(3) — 名古屋市公会堂 —

名古屋市公会堂は、1924(大正13)年1月の市議会において、皇太子裕仁親王(後の昭和天皇)のご成婚記念事業として中区鶴舞町61番地の1、鶴舞公園内に建築されることになった。建築費223万円(予算)のうち、180万円は寄附で賄った。

設計は名古屋市建築課が担当し、施工は、鉄筋コンクリート・仕上げ工事を大林組が担当、鉄骨工事は大阪鉄工所が担当、杭打ちおよび筏地形(軟弱地盤の地固め工法)は清水組が担当した。1926(昭和2)年4月2日に着工、1930(昭和5)年9月30日に竣工し、同年10月10日に開館した。名古屋市では中川運河、第三期水道拡張事業、下水処理場、公会堂の四大事業の竣工祝賀会を公会堂で公会堂の開館日と翌10月11日にかけて開催している。

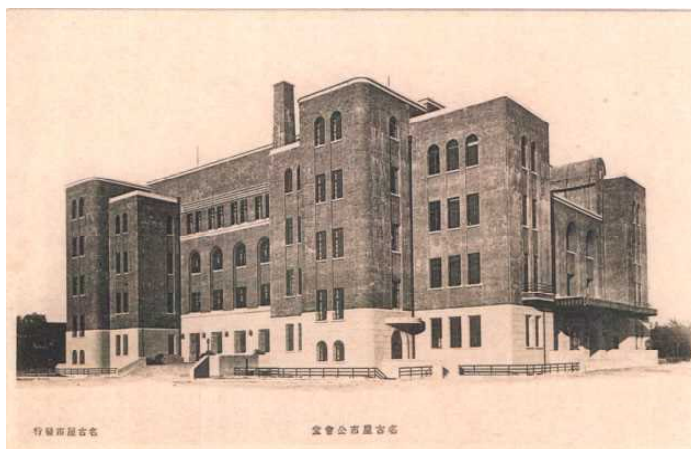
公会堂は、建築学会が鉄筋コンクリート構造計算基準を正式に発表する8年前であったためか、工事には建築顧問として、武田五一、佐野利器、鈴木禎次などが名を連ねている。

公会堂の建物は、鉄骨鉄筋コンクリート造、建築面積約2,590m<sup>2</sup>、延べ床面積12,750m<sup>2</sup>、地上4階、地下1階である。内部は、中央に3階まで吹き抜けの大ホール(2,700席)を置き、その周囲と4階に中小の集会室や特別室・日本間が配され、地階に食堂や機械室がとられた。大ホールは東京の日比谷公会堂(1929年)に比肩する規模で、当時の建設への強い意気込みが感じられる。

外観のデザインは、ロマネスク風の半円形窓を全体に配した、表現主義とみられるデザインである。2階の窓台までをベージュ色の龍山石や人造擬石ブロック張りとし、その上方の大半を茶褐色のスクラッチタイル張りとして、全体的に落ち着いた色調で整えられている。



鶴舞公園と市公会堂の絵はがき (個人蔵)



竣工時の名古屋市公会堂 (名古屋市鶴舞中央図書館蔵)



現在の名古屋市公会堂 (撮影：石田正治)



名古屋市公会堂の小会議室

1970(昭和55)年、改装工事が行われ、

2,700席大ホールは2,000席に、4階の786席大食堂は780席中ホールに、その他の部屋は9室の集会室に変更されている。

1989(平成元)年、名古屋市都市景観重要建築物に指定された。